

ご 挨拶

高山正也

遅れていた桜も咲き始め、ようやく春本番と言った気候になりましたが、会員各位には、お元気で新年度の業務にお取り組みのことと存じます。新年度の冒頭に当たり、会員の皆さまに一言ご挨拶を申し上げます。

我々のJADSも、中期計画の最終年度であった平成16年度の事業を無事に、かつ予想を上回る成果を挙げて了え、新たに平成17年度に踏み出すことができました。これもひとえに会員各位のご協力と、会員の先頭に立って、「滅私奉公」に励んでくださった役員各位の鬼神も泣かしむるほどのご努力のたまものと感謝いたしております。国際交流についても、研究発表においても、通常の学会のレベルを超える水準にまで達したと自他共に認められるに至ったことはご同慶の至りであります。

そこでJADSもいよいよ「研究会」から「学会」に衣を換えることとなりました。たかが名称の変更と言う人もおられましようが、学会と名乗るには、やはり学会としての内面的な充実も求められます。これは研究水準の向上とか、論文誌の充実とかという形式的で、学会の担当役員のみが心しておけばよいと言う問題ではありません。会員の一人ひとりが学会活動にどのような心構えで取り組むかと言う問題にかかってきます。

折しも中期計画の完了を受け、研究から学会に脱皮した第一期目の学会執行部役員を選定が目前に迫っています。この時にあたり、JADSと言う学会は他人の学会ではなく、皆さま会員お一人お一人にとっての自己実現の場としての学会であると言うことに思いを致し、学会執行部の構成にも積極的にご協力をいただきたく存じます。いやしくも、大学での師弟関係、先輩後輩関係や職場での上下関係などを利用して、自発的な会員の学会活動に制約をかけるような行動の無いことを願うこと切なるものがあります。そのような動きが、JADSの中に万一あるとすれば、それではJADSは学会員と呼ぶにふさわしくない未熟な会員を抱えていることになり、いつまでも「学会」を名乗れなくなります。

昨年度で完了した中期計画の成果を受け、今年度がJADSにとって真の学会として大きく飛躍できる初年度となるよう、会員各位の一段のご協力、ご支援、並びに成熟・進歩・充実を期待しております。

(たかやま まさや 会長) 

ドキュメンテーション作業の実践から得られた事柄：

最近2年の経験から

安澤秀一

始めに：2003年6月、熊本市立現代美術館を会場に、アート・ドキュメンテーション研究会総会が開催された。そして高山会長と交代して肩の荷を下ろした心算で居りました。2004年の総会において「アート・ドキュメンテーション学会」と名称変更がなされました。実質的に何かが変わると思えませんが、本年の総会に向けて一言書くようにと、通信編集長榎田さんから依頼され、どうしようかとだいたい迷ったものです。結局、表題のようなことを書くことで、ご勘弁いただきたいと、改めて榎田さんをお願いいたしました。

たまたま熊本で開催された総会に参加したことで、50年来探し求めていた資料に巡り合う機会を得ました。そしてここ2年ばかり、自分の興味に任せて熊本での資料調査に没頭しております。2003年夏には熊本県立図書館で閲覧と撮影作業を行い、秋に熊本大学附属図書館で永青文庫約百点の閲覧を行い、資料についてのデータを確認しました。それに基づいて撮影希望資料を選び、撮影許可申請を2004年6月末に行い、永青文庫から対象物のデジタルカメラによる全面撮影について7月2日付の許可を頂き、9月に熊本大学附属図書館寄託永青文庫資料「町方諸色値段調帳」約1600丁および財政関連資料約200丁、合計1800丁の撮影を行いました。

謝辞：調査遂行について、熊本県立図書館郷土資料室平洋子さん始め職員の皆さん、熊本大学附属図書館の岩岡中正館長、永村典子さん・成田和則さん始め職員の皆さん、そして特に永青文庫理事長細川護貞氏のご好意に、厚くお礼を表したいと思います。

画像撮影の手順：永青文庫資料の撮影画像については10月にファイルへの番号付与、さらに所在位置と検索のための手段として便宜性を確立するため、値段帳について約1200の件名仮目録を作成しました。それに基づいて11月なかばから様々なDB化作業を行い、このほどほぼ一連の作業を終えました。そうした各段階の作業を通じて、ドキュメンテーション遂行の過程から、私なりに得たものがあります。そのことを書くことで、会員の皆さんと、この2年間の経験を分かち合えればと思います。

く 一言、私事を付け加えれば、一昨年来、熊本くに6・7回、参ることになり、その度に県立図書館や熊本大学附属図書館での仕事帰りに、閉館